

# 2019年度Cライセンス審判員学科試験問題

《平成31年4月21日（日）実施》

地区名

氏名

\*問 主な注意事項について（ ）に当てはまる語句を下から選びなさい。

## 1、新罰則（指導）の内容

- ・試合中に柔道衣が乱れ、帯より（ ）に上衣の裾（背部を含む）が出た場合、主審の「待て」から「（ ）」の間に選手自ら素早く服装を直すこと。
- ・主審が「待て」を掛けても、乱れた柔道衣を直そうとせず、（ ）し乱れたまま「始め」を待っている時に主審より柔道衣を直すよう指示された場合、これを一回目とカウントし、二回目以降はその都度「（ ）」が与えられる。
- ・合わせて（ ）も、本人が緩く結ぶことが原因で解け、自ら固く結び直さず主審から指示された場合もカウントの対象となる。
- ・選手は「待て」から「始め」までの間に、自ら（ ）服装を直し、帯を固く締めなければならない。ただし積極的な試合展開で例えば柔道衣の上衣がすっぽり脱げた場合に服装を直す指示を主審が行ってもカウントされない。

## 2、標準的でない組み方

- ・審判の判断や理解を簡潔化する為、いくつかの柔道衣の握り方を含む、すべての標準的でない組み方（（ ）・ポケットグリップ等）は直ちに攻撃をすれば認められる。

## 3、ベアハグ

- ・ベアハグを行う場合は、攻撃する選手が少なくとも（ ）の組み手を持っていないなければならない。
- ・両手（ ）に組むことは認めない。柔道衣に（ ）だけでは組んでいるとはみなさない。しっかり柔道衣を握っていること。

## 3、ヘッドディフェンス

- ・相手の投技に対して背中から着地することやスコアを取られることを防ぐ為、（ ）に頭部を使用する動作に対しては「反則負け」が与えられる。

## 4、返し技

- ・返し技において、取（返し技をかける側）が畳に着地する衝撃を利用して（ ）を施すことは認めない。
- ・どちらの選手も明らかに動作を（ ）することなく、両選手が同等に着地した場合、双方にスコアを与えない。
- ・（ ）のいかなる行為も寝技とみなす。

## 6、寝技での指導

- ・相手の脚を過度に伸展して施す（ ）・関節技は禁止とする。
- ・これらの行為が見られた場合、主審は直ちに「待て」を宣告し、「指導」を与える。

外	素早く	ピストルグリップ	絞技	触れた	故意	技	帯
始め	片方	放置	指導	コントロール	同時	着地後	